

研究時間確保に向けて

CSTII会合、岡山大・農工大両学長が取組紹介

研究に専念する時間の確保に向けた大学の取組とは――。岡山大学の那須保友学長と東京農工大学の千葉一裕学長が11月28日、政府の有識者会合で、それぞれの大学の取組事例を発表した。

この日、内閣府庁舎で総合科学技術・イノベーション会議(CSTII)有識者議員懇談会が開かれた。CSTII有識者議員懇談会においては、大学における研究に専念する時間の確保に向けた検討が続いている。

文科省NISTEP定点調査によると、研究時間の制約要因のトップに「組織運営のための会議・作業」が挙げられている。岡山大の那須学長は、会議のあり方見直しについて発表した。同大は2021年4月、部局マネジメント改革プロジェクトを始動。全会議をリスト化し、内容を調査、役割の明確化や審議事項の整理などを図った。その結果、73・8%の部局で会議が短縮され、会議1回あたりの時間についても「77分」から「54分」へ



研究時間確保に向けた取組を紹介する農工大の千葉学長④と岡山大の那須学長

と約30%減を達成したという。

那須学長は「慣例となつてくる審議議題や報告事項に多くの時間を費やす一方で、教育における評価改善や中期目標・中期計画等の重要な事項の審議に十分な時間が使われていなかった。オンラインやファイル共有サービスを活用するなど、これまで当たり前と考えていた会議のあり方を変えていくこと。意識を変えていくことが大切」だと訴えた。

また、「『脱教員中心』の大学法人運営」を強調。「教員がやらなくてもよい業務をURAなど高度専門人材が実施することで、教員の研究時間確保に繋がる」と語った。

農工大の千葉学長からは、意欲的な若手研究者の早期昇格を図るキャリアアチャレンジ教授制度や、博士育成に向けた次世代研究者挑戦的研究プログラムフェローシップ制度などについて説明が行われた。

中教審答申案受けて

文科相「さらに議論深めて」

既報のとおり、中央教育審議会の特別部会が12月4日、高等教育の在り方に関する答申案をまとめた。急速な少子化のなか、答申案では、大学の再編・統合や大学院教育の拡充策などを盛り込んでいる。

阿部俊子文部科学大臣は12月6日の閣議後会見で、「我が国の『知の総和』の向上に向け、『質』の高度化、『規模』の適正化、『アクセス』の確保という3点を軸にして、今後の高等教育政策の方向性と具体的な施策が示された。答申に向けてさらに議論を深めていただきたい。文科省としては、今後答申



大臣が取りまとめられたら、それを踏まえて改革に速やかに取り組んでいく」と語った。

宮内庁が発表

悠仁さま 筑波大学合格

宮内庁は12月11日、秋篠宮ご夫妻の長男・悠仁さまが筑波大学生命環境学群生物学類(茨城県つくば市)に合格されたと発表した。

悠仁さまは同大の学校推薦型選抜の入学試験を受けられた。現在、筑波大学附属高校(東京都文京区)に通学されているが、来春からは住まいのある赤坂御用地(東京都港区)から通われるとみられる。

筑波大学によると、2025年度入試にお

いて、全入学定員2119名のうち543名(約26%)を推薦入試で募集し、全国から1818名の推薦があり、550名が合格した。同大の推薦入試は、全国の高校長・中等教育学校長から推薦要件を満たした生徒を推薦してもらう制度として、筑波大学の開学時の1974年度から実施しており、これまで約2万4500名の人材がこの入試を経て入学している。受験者は小論文、面接、実技試験などの入学試験を受け、文章の理解力、論理的思考力、表現力、実技技能などを評価し合格者を選抜しているという。